

種をまく

12月3日(金)に赤澤勝崇さん(合同会社8 代表)を招いて親子でSDGs(持続可能な開発目標)についての学習会を行いました。3時間に及ぶ会でしたが、カードゲームやプレゼンソフトを使うことで、分かりやすくテンポよく進められ、子ども達も保護者も時間を忘れて学習会に参加し、実りの多い学びのひとつとなりました。

赤澤さんとは、彼がSDGs研修会を行っている新聞記事を読み、会社にメールしたことがご縁となり、とんとん拍子で親子学習会までこぎつけることができました。このプロジェクトを進めるにあたり、赤澤さんの積極性、行動力、聞く力、瞬時にメモする力など様々な面で勉強になることがたくさんありました。11月に本校に下見に来られた際、「私は子ども達にSDGsの種まきをしたい」と話していたことが印象的で、この一言にSDGsの浸透にかける強い信念が窺(うかが)われました。

学校での様々な学びも私は「種をまく」作業だと思っています。学校でまいた種がすぐに芽を出し実や花になる子もいる一方、中には中学校では芽が出ず、3年後や5年後に開花する子もいます。発芽や開花には個人差があるのですが、私たち大人は学校や家庭・地域という土壌を常に整えておき、水や日光という愛情を適切な機会に適度な量だけ与え、時に芽のそばに生える雑草を摘みながら、ただひたすらに芽の出て、花開く時を待つことが大事なのではないかと思いました。

「音(おと)もなく香(か)もなく常に天地(あめつち)は、書かざる経(きょう)を繰り返しつつ」
(二宮翁夜話)

藤川俊彦(12月20日更新)